

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月7日

上場会社名 ニチレキ株式会社

上場取引所 東

 コード番号 5011 URL <http://www.nichireki.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山内 幸夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 管理本部長 (氏名) 高橋 保守

TEL 03-3265-1511

四半期報告書提出予定日 平成21年8月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	6,408	9.3	△312	—	△236	—	△0	—
21年3月期第1四半期	5,861	—	△1,261	—	△1,195	—	△476	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△0.00	—
21年3月期第1四半期	△15.91	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	39,322	26,101	54.9	741.60
21年3月期	43,846	26,208	49.1	738.51

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 21,598百万円 21年3月期 21,511百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	—	—	8.00	8.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	16,700	14.1	△600	—	△500	—	△250	—	△8.50
通期	46,000	2.9	1,600	31.1	1,700	19.8	800	26.0	27.19

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	31,685,955株	21年3月期	31,685,955株
---------------------	-------------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	2,561,325株	21年3月期	2,557,151株
-----------	-------------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	29,127,089株	21年3月期第1四半期	29,932,716株
----------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成21年5月14日発表の業績予想を修正しておりません。業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の実績等は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。なお業績予想の前提となる事項については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

## (1) 平成22年3月期第1四半期連結累計期間の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、在庫調整が進み生産に回復の兆しが見られましたが、企業収益の低下による設備投資の減少や急速に悪化する雇用情勢など、景気全体としては低調に推移いたしました。

当社グループを取り巻く環境につきましては、前年度の補正予算などにより公共事業の発注は底堅い動きであったものの、依然として熾烈な受注競争や原材料の価格変動への対応など、厳しい状況が続きました。

当社グループはこのような環境の中で、中期経営計画『MAG・Netプラン』の2年目として、「環境を重視した開発型企業への推進による収益力の向上」「事業環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる経営基盤の構築」などを基本方針とし、機動的グループ経営体制の強化を図りつつ、効率的な業務活動に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は6,408百万円（前年同期比9.3%増）となりました。また、営業損失は312百万円（前年同期は1,261百万円の営業損失）、経常損失は236百万円（前年同期は1,195百万円の経常損失）となり、四半期純損失は0百万円（前年同期は476百万円の四半期純損失）となりました。

## (2) 事業別の状況

## ① アスファルト応用加工製品事業

アスファルト応用加工製品事業につきましては、提案型営業を積極的に推進し、独自性のあるニチレキ製品の拡販に努めた結果、売上高は3,217百万円（前年同期比4.9%増）となり、営業利益は636百万円（前年同期は127百万円の営業損失）となりました。

## ② 道路舗装事業

道路舗装事業につきましては、補正予算などによる発注物件へのニチレキ工法の提案および受注活動に取り組んだ結果、売上高は3,114百万円（前年同期比14.6%増）となり、営業損失は521百万円（前年同期は766百万円の営業損失）となりました。

## ③ その他事業

その他事業につきましては、不動産賃貸収入などにより、売上高は76百万円（前年同期比1.9%減）となり、営業利益は52百万円（前年同期比10.1%増）となりました。

なお、当社グループおよび当社の業績につきましては、その特徴として上半期に比べ例年下半期に大きく偏る傾向にあり、また各四半期に相違が見られるなど季節的変動があります。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 四半期連結会計期間末の資産・負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べて4,523百万円減少し、39,322百万円となりました。これは、現金及び預金が2,177百万円増加、受取手形及び売掛金7,955百万円減少などによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて4,416百万円減少し、13,221百万円となりました。これは、買掛金が4,183百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ107百万円減少し、26,101百万円となりました。これは、配当金の支払いなどによるものです。

## (2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間に比べて993百万円増加し、2,872百万円の収入となりました。これは、売上債権の減少8,443百万円などによる収入および仕入債務の減少4,469百万円、税金等調整前四半期純損失241百万円などの支出によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間に比べて229百万円減少し、334百万円の支出となりました。これは、有形固定資産の取得による325百万円などによる支出によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期連結累計期間に比べて39百万円減少し、360百万円の支出となりました。これは、配当金の支払額192百万円などによる支出によるものです。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の四半期末残高は、前年同四半期連結累計期間末に比べて2,252百万円増加し、9,783百万円になりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の国内経済は、景気に一部持ち直しの動きが見られるものの、個人消費の低迷や雇用情勢の一層の悪化が予想されるなど、本格的な景気回復にはまだ時間がかかるものと思われま

す。当社グループを取り巻く環境は、熾烈な企業間競争などに加え、原油価格や原材料価格の変動など不透明感が強く、さらに厳しい状況下での事業推進となることが予想されます。

このような状況の中で当社グループは、引き続きエリアの一体化経営、独自性のある高付加価値製品・工法の提供などを推進し、企業体質の強化ならびに業績の向上に努めてまいります。

第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想につきましては、平成21年5月14日発表の数値を変更しておりません。

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

## ① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結累計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

## ② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

## ③ 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

## ④ 退職給付費用の期間按分計算

期首に算定した年間の退職給付費用を期間按分する方法により算定しております。

## ⑤ 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

## ⑥ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

完成工事高および完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第 1 四半期連結会計期間末 (平成21年 6 月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年 3 月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,767	7,589
受取手形及び売掛金	9,868	17,824
有価証券	115	115
商品及び製品	604	493
未成工事支出金	1,164	693
原材料及び貯蔵品	658	520
繰延税金資産	594	439
その他	532	447
貸倒引当金	△78	△101
流動資産合計	23,228	28,023
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,132	4,174
機械装置及び運搬具（純額）	2,341	2,465
土地	3,774	3,774
リース資産（純額）	506	545
建設仮勘定	328	237
その他（純額）	277	292
有形固定資産合計	11,360	11,489
無形固定資産		
その他	353	371
無形固定資産合計	353	371
投資その他の資産		
投資有価証券	2,702	2,169
繰延税金資産	819	925
その他	1,161	1,162
貸倒引当金	△303	△295
投資その他の資産合計	4,379	3,961
固定資産合計	16,094	15,822
資産合計	39,322	43,846

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,102	7,286
短期借入金	600	700
未払金	2,242	2,555
未払法人税等	188	617
賞与引当金	964	653
その他の引当金	3	55
その他	1,608	1,210
流動負債合計	8,711	13,078
固定負債		
リース債務	390	431
繰延税金負債	51	66
退職給付引当金	3,450	3,448
負ののれん	325	327
長期預り金	161	161
長期未払金	129	124
固定負債合計	4,509	4,559
負債合計	13,221	17,637
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,919	2,919
資本剰余金	2,017	2,017
利益剰余金	17,287	17,520
自己株式	△1,354	△1,353
株主資本合計	20,870	21,104
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	728	407
評価・換算差額等合計	728	407
少数株主持分	4,502	4,696
純資産合計	26,101	26,208
負債純資産合計	39,322	43,846

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	5,861	6,408
売上原価	5,567	5,202
売上総利益	293	1,205
販売費及び一般管理費	1,554	1,518
営業損失(△)	△1,261	△312
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	37	40
負ののれん償却額	19	27
その他	18	10
営業外収益合計	77	80
営業外費用		
支払利息	1	1
その他	10	3
営業外費用合計	11	4
経常損失(△)	△1,195	△236
特別利益		
固定資産売却益	3	1
貸倒引当金戻入額	38	15
前期損益修正益	22	10
特別利益合計	64	27
特別損失		
固定資産除売却損	1	0
前期損益修正損	49	31
その他	4	—
特別損失合計	56	32
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,186	△241
法人税、住民税及び事業税	17	180
法人税等調整額	△479	△273
法人税等合計	△462	△92
少数株主損失(△)	△248	△148
四半期純損失(△)	△476	△0

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成20年 6 月 30 日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成21年 6 月 30 日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△1,186	△241
減価償却費	429	369
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△46	△15
受取利息及び受取配当金	△39	△42
支払利息	1	1
売上債権の増減額 (△は増加)	9,248	8,443
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△951	△719
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,979	△4,469
負ののれん償却額	△19	△27
賞与引当金の増減額 (△は減少)	316	311
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	8	2
その他の引当金の増減額 (△は減少)	—	△51
固定資産売却損益 (△は益)	△3	△1
固定資産除却損	1	0
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△267	△120
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△181	△18
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	25	15
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	16	△10
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△39	5
その他	△17	8
小計	2,315	3,438
利息及び配当金の受取額	39	31
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△473	△595
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,879	2,872
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△105	△325
有形固定資産の売却による収入	5	1
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
貸付けによる支出	△12	△6
貸付金の回収による収入	7	6
無形固定資産の取得による支出	△0	△8
その他	—	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105	△334
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	500	400
短期借入金の返済による支出	△500	△500
リース債務の返済による支出	△57	△45
自己株式の取得による支出	△0	△1
配当金の支払額	△233	△192
少数株主への配当金の支払額	△31	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△321	△360
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,452	2,177
現金及び現金同等物の期首残高	6,078	7,605
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,530	9,783



- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

	アスファルト 応用加工 製品事業 (百万円)	道路舗装事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	3,066	2,716	78	5,861	—	5,861
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	806	—	12	819	(819)	—
計	3,872	2,716	90	6,680	(819)	5,861
営業利益又は営業損失(△)	△127	△766	47	△845	(415)	△1,261

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分に属する主な内容

(1) アスファルト応用加工製品事業: アスファルト乳剤、改質アスファルト、その他舗装用材料等の製造・販売に関する事業等

(2) 道路舗装事業 : 舗装、土木、橋梁防水、その他建設工事に関する事業

(3) その他事業 : 不動産賃貸業、損害保険代理業等

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	アスファルト 応用加工 製品事業 (百万円)	道路舗装事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	3,217	3,114	76	6,408	—	6,408
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	988	—	13	1,001	(1,001)	—
計	4,205	3,114	89	7,409	(1,001)	6,408
営業利益又は営業損失(△)	636	△521	52	167	(479)	△312

(注) 1 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分に属する主な内容

(1) アスファルト応用加工製品事業: アスファルト乳剤、改質アスファルト、その他舗装用材料等の製造・販売に関する事業等

(2) 道路舗装事業 : 舗装、土木、橋梁防水、その他建設工事に関する事業

(3) その他事業 : 不動産賃貸業、損害保険代理業等

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）については、在外連結子会社および在外支店がないため記載しておりません。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）については、海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。